

植木、盆栽及び苗木の輸出に不可欠な植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う商品価値の低下に関する対策技術の高度化

1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 農研機構中央農業研究センター・立石 靖

2 研究期間：令和2年度～令和4年度（3年間）

3 研究目的

植木、盆栽及び苗木（以下、造形樹等）の輸出時の検疫で問題となる植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う品質低下の抑制を確実にするため、一連の対策技術を高度化して安定的な輸出の実現に貢献する。

4 研究内容及び実施体制

① 線虫の除去等に起因する品質低下を抑制する技術の開発

根洗いや薬剤処理によって生じる又は輸送期間中に生じる造形樹等の品質低下の抑制に有効な技術体系を開発する。

（千葉県農林総合研究センター、香川県（園芸総合センター、農政水産部農業経営課、東讃農業改良普及センター、農業試験場病害虫防除所）、福岡県農林業総合試験場）

② 新規薬剤を活用した線虫除去技術の開発

樹木類の線虫除去用途に適用拡大される見込みの新規有望剤の活用技術を開発し、その効果を科学的に裏付ける。

（埼玉県（農業技術センター、花と緑の振興センター）、千葉県農林総合研究センター、香川県（農業試験場病害虫防除所、園芸総合センター、農政水産部農業経営課、東讃農業改良普及センター）、福岡県農林業総合試験場、農研機構中央農業研究センター）

5 最終目標

一連の対策技術を高度化することで、輸出用のマツ盆栽、イブキ盆栽、イヌマキ植木、ツツジ等苗木の品質低下及び線虫の検出による輸出検査の不合格率を、品目ごとの目標値まで抑制する。

6 期待される効果・貢献

本事業の取組で高度化された対策技術を核として生産管理体系を構成することで、商品価値を損なわずに線虫の除去に成功した造形樹等の生産が拡大し、今後の輸出促進が期待される。

02011B

植木、盆栽及び苗木の輸出に不可欠な植物寄生性線虫の除去及びそれに伴う商品価値の低下に関する対策技術の高度化

【研究の目的・背景】

輸出相手国の検疫で植物寄生性線虫が検出された場合の損失や線虫除去等に伴う商品価値の低下を回避するために様々な対策技術を高度化して、植木、盆栽及び苗木（以下、造形樹等）の安定的な輸出の実現に貢献する。

【研究内容・実施体制】

対象品目（担当県）： マツ盆栽（香川）、イブキ盆栽（埼玉）、イヌマキ植木（千葉）、ツツジ等の苗木（福岡）



【最終目標】

一連の対策技術の高度化によって品質低下及び線虫の検出による輸出検査の不合格率を、品目ごとの目標値まで抑制する。

【期待される効果・貢献】

商品価値を損なわずに線虫の除去に成功した造形樹等の生産が拡大して今後の輸出促進が期待される。